



大倉喜八郎と喜七郎

■大倉集古館の沿革

大倉集古館は明治から大正時代にかけて活躍した実業家・大倉喜八郎(1837~1928)が設立した日本で最初の財団法人の私立美術館です。喜八郎は明治維新以来、産業の振興、貿易の発展に力を尽くし、育英、慈善事業に多く功績を残しました。一方で、美術品の海外流出を嘆き、その保護とわが国の文化の向上に努めた上、50余年にわたって蒐集した多数の文化財と土地・建物及び維持資金を寄付し、大正6年(1917)に財団法人大倉集古館を設立しました。

しかし大正12年(1923)の関東大震災により、当初の建物と陳列中の所蔵品を失いました。昭和2(1927)年、伊東忠太博士の建築設計による耐震耐火の展示館が竣工し、災禍を免れた優品を基にして、更に所蔵品を増加し、翌年10月に再び開館しました。

さらに嫡男喜七郎(1882~1963)がその遺志を継いで、館の維持経営に絶大な援助を行い、自らが多年蒐集した名品、特に近代日本画を多数寄付することで所蔵品の充実を図りました。

第二次世界大戦の戦禍を免れ、昭和35年には財団法人大倉文化財団と改称、同37年にはホテルオークラ開業に合わせて大規模改修を行いました。中国古典様式の名作である展示館は、平成10年に国の登録有形文化財に指定されました。そして、令和元年9月には、5年以上に及んだ増改築工事を経て、オークラ東京と共に再開館しました。

所蔵品は日本・東洋各地域の絵画・彫刻・書跡・工芸など広範にわたり、国宝3件・重要文化財13件及び重要美術品43件をはじめとする美術品約2500件を収蔵しています。展覧会の開催等を通じて、多くの皆様にご来館いただき、日本・東洋美術の粋にふれる好機を提供しています。



■ACCESS

- 東京メトロ ●南北線 六本木一丁目駅 中央改札口(泉ガーデン方面)より5分
- 日比谷線 神谷町駅4b出口より7分
- 日比谷線 虎ノ門ヒルズ駅A2出口より8分
- 銀座線 ●南北線 溜池山王駅13番出口より10分

※駐車場はございません。公共の交通機関でお越しください。

■開館時間 10:00~17:00(入館は16:30まで)

- 休館日 月曜日(休日の場合は翌平日)、展示替期間、年末年始 等
- ※展覧会内容、出品作品、会期、展示替日などが変更になる場合がございます。事前にご確認ください。

■入館料

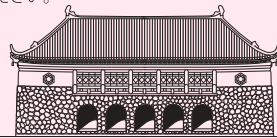
- 一般 1,000円(特別展は1,500円)
- 大学生・高校生 800円(特別展は1,000円)
- ※学生証をご提示ください。
- ※展覧会内容によって、料金が変更になる場合がございます。
- 中学生以下 無料
- 同会期中の有料リピーターは500円引き(前回ご来館のチケットをご持参ください)
- 20名様以上の団体は500円引き
- 障がい者手帳、被爆者手帳をご提示の方とその同伴者1名は無料
- お着物(和装)でご来館の方は300円引き(割引併用不可)

■オークラ東京とのセット鑑賞券

- ランチセット鑑賞券 6,000円/茶菓セット鑑賞券 3,100円

■ミュージアムパスポートのご案内

- 大倉集古館では、ミュージアムパスポートのメンバーを募集しております。詳しくはお問合せください。
- 入会金5,500円



公益財団法人 大倉文化財団

大倉集古館

OKURA MUSEUM OF ART

〒105-0001東京都港区虎ノ門2-10-3

Tel: 03-5575-5711

公式WEBサイト: <https://www.shukokan.org/>

大倉集古館 展覧会案内



2025年4月~2026年3月

「夜桜」(左隻) 横山大観 昭和4年(1929)

企画展

幽玄への誘い

—能面・能装束の美—

2025年4月15日(火)～6月29日(日)

当館では、因州(鳥取藩)池田家伝来の能面と備前(岡山藩)池田家伝来の能装束を多数所蔵していると同時に、有馬伯爵家旧蔵といわれる狂言面もコレクションに含まれております。能関係では約5年ぶりとなる本展では、修理が完了した「紅白段業平菱菊模様唐織」と「紫地葡萄蔦模様長絹」を公開すると同時に、能・狂言の演目を描いた絵画資料や能道具など当館所蔵の作品を中心に展示致します。



「紅白段業平菱菊模様唐織」
江戸時代・18世紀



「能面 増女」
江戸時代・18世紀



「紫地葡萄蔦模様長絹」
江戸時代・19世紀

特別展

藍と紅のものがたり

2025年7月29日(火)～9月23日(火・祝)

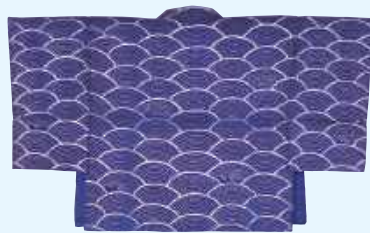
日本の色彩文化において欠かせない藍色と紅色は、植物のアイとベニバナから生まれます。手間のかかる工程による伝統的な藍染と紅花染は、それぞれ独自の文化を築いてきました。本展では、ふたつの色と染料技術の歴史、そこから生まれた意匠や衣服を紹介し、その魅力を見つめなおします。



「紅板締め着物」
江戸時代後期～明治時代
個人蔵



「紺木綿地市松模様絞り浴衣」 明治時代 今昔西村蔵



「縹地青海波文様唐衣(采女装束のうち)」
江戸時代 奈良県立美術館蔵

特別展覧会

アートウィーク東京

AWT FOCUS

2025年11月5日(水)～9日(日)

東京における現代アートの創造性と多様性を国内外に発信するアニュアルイベント「アートウィーク東京(AWT)」が、大倉集古館を会場に、作品が「買える」展覧会「AWT FOCUS」を5日間限定で開催いたします。都内に広がるギャラリーをAWTがつなぎ、キュレーションの可能性を探りながら、現代アートの歴史や言説をご紹介します。会場を構成する作品がすべて「available(購入可能)」な、新しい形式のプラットフォームです。

主催：一般社団法人コンテンポラリーアートプラットフォーム



企画展

人々を援け寄り添う神と仏

—道釈人物画の世界—

2025年11月22日(土)～2026年1月18日(日)

江戸時代において神や仏は、遠い浄土や深山にではなく、身近な人間の形に姿を変え、人々とともにありつづきました。仏教の仏である菩薩像や観音像、日本や中国の民間信仰に取り入れられた神仙である七福神や鐘馗など、親しみやすい姿となって人々に寄り添い、福や勇気を与え続けました。本展では絵画を中心に、江戸時代を中心につくられた神仏の姿を紹介します。



「銕絵寿老図六角皿」
尾形乾山作
尾形光琳絵付
江戸時代・17世紀
重要文化財



「鍾馗図」 二代葛飾戴斗筆 江戸時代・文政13年(1830)



「布袋各様図巻(部分)」 松花堂昭暁筆 江戸時代・17世紀

特別展

出光美術館所蔵 茶道具名品展

2026年2月3日(火)～3月22日(日)

茶の湯は日本美術の中にあって、その一翼を担っている不可欠な分野であり、そこで使われる道具類は、絵画・書跡・陶磁・金工・漆工・木竹工などあらゆる分野にまたがっています。本展覧会では、出光美術館が所蔵する多くの名品の中から茶道具を取り上げ、茶道具を構成する多種多様な作品を通して、日本美術を横断的に鑑賞する機会をご提供いたします。



左から
「肩衝茶入 銘師匠坊」
南宋時代 大名物 前田家伝来



「青磁下無花生」
南宋時代 鹿島家伝来 南宋官窯
重要文化財



「黒楽茶碗 銘此花 道入(ノンコウ)」
江戸時代前期 水戸徳川家伝来